

## V 試験研究発表題名



## 令和3年度 試験研究発表題名一覧

番号. 著者名. タイトル. 誌名, 掲載号: ページ

1. ISHIYAMA Naoko (石山直子・高知工科大学)、HORISAWA Sakae (堀澤栄・高知工科大学)、HARA Tadashi (原忠・高知大学)、YOSHIDA Makoto (吉田誠・東京農工大学)、MOMOHARA Ikuo (桃原郁夫). Microbiological community structure on logs used for groynes in a riverbank system. (河川の制水工に用いられた丸太上の微生物群集構造). *Journal of Wood Science*, 67:11, doi.org/10.1186/s10086-021-01944-0
2. 桃原郁夫. 森林・生活空間における木材と腐朽菌との関係. 防菌防黴学会誌, 49 (4):181-187
3. 桃原郁夫. 第5期中長期目標期間が始まりました. 森林総合研究所関西支所研究情報, 140:1
4. MOMOHARA Ikuo (桃原郁夫)、SAKAI Haruko (酒井温子) (奈良県森林技術センター)、KURISAKI Hiroshi (栗崎宏) (富山県農林水産総合技術センター木材研究所)、OHMURA Wakako (大村和香子)、KAKUTANI Toshikazu (角谷俊和) (兼松サステック株式会社)、SEKIZAWA Tokio (関澤外喜夫) (日本木材防腐工業組合)、IMAMURA Yuji (今村祐嗣) (一般財団法人建築研究協会). Comparison of natural durability of wood by stake tests followed by survival analysis. (杭試験と生存分析による素材耐久性の比較). *Journal of Wood Science*, 67:44
5. 桃原郁夫. おとなの自由研究～木材腐朽菌～ (1). *agreable*, 59:4-5
6. 桃原郁夫. おとなの自由研究～木材腐朽菌～ (2). *agreable*, 60:6-7
7. MOMOHARA Ikuo (桃原郁夫)、SAKAI Haruko (酒井温子・奈良県森林技術センター)、KUBO Yuji (久保友治・コシイブレザービング株式会社). Comparison of durability of treated wood using stake tests and survival analysis. (杭試験と生存分析による処理木材の耐久性比較). *Journal of Wood Science*, 67:63
8. 桃原郁夫. 劣化因子 (木材腐朽菌). 住宅と木材, 44 (516):30-33
9. 桃原郁夫. 第1章 はじめに, 第8章 耐久性向上処理. 製材作業の基礎, 1-8, 86-92
10. 桃原郁夫. おとなの自由研究 第3回～木材腐朽菌～. *agreable*, 61:6-7
11. 村上亘、野口正二、久保田多余子、細田育広. 山地流域における間欠的な土砂の動きの把握<山形県釜淵森林理水試験地における流出土砂の長期観測>. 砂防の観測の現場を訪ねて2～山地河川内の複雑な土砂の動きを知る～ (砂防学会、出版プロジェクト委員会 (編)) (砂防学会, 136 頁), 69-78
12. IIZUKA Kotaro (飯塚浩太郎・東京大学)、KOSUGI Yoshiko (小杉緑子・京都大学)、NOGUCHI Shoji (野口正二)、IWAGAMI Sho (岩上翔). Toward a Comprehensive Model for Estimating Diameter at Breast height of Japanese Cypress (*Chamaecyparis obtusa*) using Crown Size Derived from Unmanned Aerial Systems (無人航空機による樹冠サイズを用いたヒノキ (*Chamaecyparis obtusa*) の胸高での直径推定のための包括的モデルに向けて). *Computers and Electronics in Agriculture*, DOI:10.1016/j.compag.2021.106579
13. 野口正二. コロナ禍において森林研究について思う. 一般社団法人 日本森林技術協会, 121:2021 年 8 月 2 日配信号
14. 田村浩喜 (秋田県林業研究研修センター)、野口正二、阿部俊夫、飯田真一、新田響平 (秋田県林業研究研修センター)、和田覚 (秋田県林業研究研修センター). 2020 年の少雪が融雪流出に与えた影響. 日本森林学会大会学術講演集, 133:208 (P-353)

15. 田村浩喜（秋田県林業研究研修センター）、野口正二、金子智紀（公益社団法人秋田県緑化推進委員会）、長岐昭彦（秋田県林業研究研修センター）、和田覚（秋田県林業研究研修センター）、新田響平（秋田県林業研究研修センター）、阿部実（一般社団法人秋田県林業コンサルタント）。スギ人工林の間伐と森林機能～秋田県長坂試験地における観測結果より～。治山シンポジウム概要集、61:43-46
16. 岩上翔、野口正二、清水貴範、久保田多余子、飯田真一。Behavior of pore-air entrapment in unsaturated soil layer in two small headwater catchments with different soil depth.（土層厚の異なる2つの森林小流域における不飽和土層中の封入空気挙動）。日本地球惑星科学連合大会（2021）、AHW20-02
17. 鳥山淳平、橋本昌司、齊藤哲。九州地方のスギ人工林の生産力に対する気候変動の影響予測。森林総合研究所九州支所年報（令和3年版）、33:9-11
18. 齊藤哲。気候変動でスギの成長は増える？減る？。季刊森林総研、54:18
19. 齊藤哲、荒木眞岳、井上裕太（元森林総研職員）、田中憲蔵、橋本昌司、大曾根陽子（元森林総研職員）、鳥山淳平、安江恒（信州大学）、斎藤琢（岐阜大学）。気候変動が人工林に及ぼす影響を予測する。森林総合研究所第4期中長期計画成果集、16-17
20. 大橋伸太、田中憲蔵（国際農林水産業研究センター）、三浦覚、齊藤哲、大前芳美（森林総研PD）、金指努（福島大学）。コナラの当年枝と幹のセシウム濃度の関係：幹サイズに依存するか？。日本森林学会大会学術講演集、133:P-457
21. IIDA Yoshiko（飯田佳子）、UMEKI Kiyoshi（梅木清・千葉大学）、AIBA Shin-ichiro（相場慎一郎・北海道大学）、KUROKAWA Hiroko（黒川紘子）、KONDO Shuntaro（近藤駿太郎・横浜国立大学）、MUKAI Mana（向井真那・山梨大学）、MORI Akira S（森章・横浜国立大学）、SAITO Satoshi（齊藤哲）、SUN Yi（国立台湾大学）、NIIYAMA Kaoru（新山薫）。Temporal and size-related interspecific variations in trait-mediated demographic associations in a warm temperate rain forest（暖温帯林の形質を介した動態の関連における径時的及びサイズ依存的な種間変異）。日本生態学会大会講演要旨集、69:D03-06
22. 齊藤哲。「地域再生シンポジウム2021 in 飛騨 広葉樹活用による地域再生～いま地域に求められること～」の開催報告。森林総合研究所関西支所研究情報、143:1-2
23. 齊藤哲、山下直子、北川涼、小谷英司。木材価格を基にした広葉樹林価格の推定の試み。日本森林学会大会学術講演集、133:D23
24. TANAKA Kenzo（田中憲蔵・国際農研）、INOUE Yuta（井上裕太・元森林総研PD）、ARAKI G Masatake（荒木眞岳）、KAWASAKI Tatsuro（川崎達郎）、KITAOKA Satoshi（北岡哲・北海道大学）、TSURITA Tatsuya（釣田竜也）、SAKATA Tadashi（阪田匡司）、SAITO Satoshi（齊藤哲）。Effects of throughfall exclusion on photosynthetic traits in mature Japanese cedar (*Cryptomeria japonica* (L.f.) D. Don.).（降雨遮断によるスギ成木の光合成特性への影響）。Forests、12（8）:971
25. 齊藤哲。DISCUSSION ROOM 広葉樹活用の可能性－もっと使えるはずなのに－。一般社団法人日本森林技術協会メールマガジン、128: ページなし
26. 谷誠（人間環境大学）、藤本将光（立命館大学）、勝山正則（京都府立大学）、小島永裕（滋賀県琵琶湖環境科学研究センター）、細田育広、小杉賢一郎（京都大学）、小杉緑子（京都大学）、中村正（王子グリーンリソース株式会社）。土壌喪失をとまなう森林攪乱が降雨流出応答に及ぼす影響に関する地質ごとの流出機構に基づく評価。水利科学、377、64（6）:105-148

27. 久保田多余子、香川聡、阿部俊夫、細田育広. Effects of clear-cutting and meteorological and physiological factors on evapotranspiration in the Kamabuchi experimental watershed in northern Japan. (日本北部にある釜淵森林理水試験地における、皆伐、気象および植物生理的な要因が蒸発散量に及ぼす影響). Hydrological Processes、35 (4):e14111
28. 細田育広. 山間で観測された全天日射量の簡易な評価法の再検討. 水文・水資源学会／日本水文学会研究発表会要旨集 (2021)、PP-A-41
29. 久保田多余子、香川聡、阿部俊夫、細田育広. 森林の成長が長期蒸発散量に及ぼす影響. 水文・水資源学会／日本水文学会研究発表会要旨集 (2021)、PP-A-39
30. SHIMIZU Takanori (清水貴範)、TAMAI Koji (玉井幸治)、HOSODA Ikuhiro (細田育広)、NOGUCHI Shoji (野口正二)、KOMINAMI Yuji (小南祐志)、ABE Toshio (阿部俊夫)、KITAMURA Kenzo (北村兼三)、KUOKAWA Ushio (黒川潮)、Delphis F. Levia (米デラウェア大)、KUBOTA Tayoko (久保田多余子)、KABEYA Naoki (壁谷直記)、IIDA Shin'ichi (飯田真一)、NOBUHIRO Tatsuhiko (延廣竜彦)、SAWANO Shinji (澤野真治)、IWAGAMI Sho (岩上翔)、SHIMIZU Akira (清水晃)、TSUBOYAMA Yoshio (坪山良夫). Long-term precipitation and stream discharge records at seven forested experimental watersheds along a latitudinal transect in Japan: Jozankei, Kamabuchi, Takaragawa, Tsukuba, Tatsunokuchi-yama, Kahoku and Sarukawa. (日本の緯度方向に沿った7つの森林試験流域における長期的な降水量と水流出量の記録：定山溪、釜淵、宝川、筑波、竜の口山、鹿北、去川). Hydrological Processes、35 (10):e14376、DOI:10.1002/hyp.14376
31. 細田育広. 基盤事業：森林水文モニタリングー竜ノ口山森林理水試験地ー. 森林総合研究所関西支所年報（令和3年版）、62:43
32. 細田育広. 竜ノ口山南谷3%面積におけるヒノキ林30%間伐後4年間の水流出の変化. 日本森林学会大会学術講演集、133:208 (P-352)
33. 細田育広、吉村真由美. 冬季的那智川源流で顕著に観察された淡水藻類について. 森林総合研究所研究報告、21 (1):83-90
34. 久保田多余子、吉村真由美. 溪畔林内の渓流水中の日射量を推定する試み. 関東森林研究、72 (1):85-88
35. YOSHIMURA Mayumi (吉村真由美)、MATSUURA Toshiya (松浦俊也)、SUGIMURA Ken (杉村乾・元森林総研職員). Attitudes to forest conditions and fishing activities in the mountain area in Japan. (日本の中山間地域における森林管理と遊漁活動に対する考え方について). Fisheries Research、244:106125
36. 東川航 (土木研究所)、吉村真由美. 水田地帯で激減する赤とんぼの保全ー生態研究の成果と課題ー. 農業および園芸、96 (10):875-888
37. 東川航 (土研)、吉村真由美. 水田地帯で激減する赤とんぼの保全ー生態研究の成果と課題ー. 琵琶湖地域の水田生物研究会要旨集、12:P3 (O01)
38. YOSHIMURA Mayumi (吉村真由美)、AKAMA Akio (赤間亮夫・元森林総研職員). Relationships Between Stomach Contents and Radiocesium Contamination of Fish by Fukushima Radioactive Accident in 2011, in Japan (福島放射性物質事故による魚の放射能汚染と胃内容物との関係). In S. Nagao (ed.), Impacts of Fukushima Nuclear Accident on Freshwater Environments、12:185-196
39. 吉村真由美. 放射性セシウムによる渓流域への汚染. 森林総合研究所関西支所研究情報、142:2-3
40. 東川航 (土研)、吉村真由美. 赤とんぼの減少原因から探る水田の生息場機能の変化. 水生昆虫談話会例会要旨集、477:P1

41. 吉村真由美、久保田多余子. Evaluation of sunlight penetration through riparian forest and its effects on stream biota. (溪畔林域の木漏れ日の評価と水生生物への影響について). *Global Ecology and Conservation*, 34:e02043
42. 山下直子. 個体スケール：葉ノフェノロジーと環境適応. 森林総合研究所関西支所研究情報, 142:4
43. 山下直子. 植栽後の苗木の活着率を向上させる方法－摘葉処理の効果－. 造林時報, 211:13-17
44. 山下直子、田中真哉、齋藤和彦、中尾勝洋、奥田史郎、山本伸幸、伊東宏樹、高橋裕史、垂水亜紀、小林功、吉永秀一郎、諏訪鍊平（国際農林水産業研究センター）、細田和男（林野庁）. 広葉樹資源を有効に活用し地域を支える. 森林総合研究所第4期中長期計画成果集, 38-39
45. 平田晶子（森林総研PD）、小南裕志、大橋春香、津山幾太郎、田中信行（東京農大）、中尾勝洋、脇岡靖明（国環研）、松井哲哉. 気候ストレス指数の全球推定により森林の気候変動への応答を予測する. 日本森林学会大会学術講演集, 133:P-254
46. 倉本恵生、伊東宏樹、瀧誠志郎、中尾勝洋、高橋正義、阿部森也（茨城県林業技術センター）、山田晴彦（茨城県林業技術センター）、中村博一（群馬県林業試験場）、福島成樹（千葉県森林研究所）. 機械学習法を用いた空撮画像からのヒノキ着花の判別. 日本花粉学会大会講演要旨集, 62:38 (0-14)
47. 内山憲太郎、韓慶民、楠本倫久、中尾勝洋、金谷整一、上野真義、陶山佳久（東北大学）、津村義彦（筑波大学）. 産地試験地を用いたスギの環境適応遺伝子の検出. 森林遺伝育種学会大会講演要旨集, 10:25 (P31)
48. NAKAO Katsuhiko (中尾勝洋)、KABEYA Daisuke (壁谷大介)、AWAYA Yoshio (粟屋善雄・岐阜大)、YAMASAKI Shin (高知県)、TSUYAMA Ikutaro (津山幾太郎)、YAMAGAWA Hiromi (山川博美)、MIYAMOTO Kazuki (宮本和樹)、Masatake G. ARAKI (荒木眞岳). Assessing the regional-scale distribution of height growth of *Cryptomeria japonica* stands using airborne LiDAR, forest GIS database and machine learning (航空機LiDAR、森林GIS、機械学習モデルを用いた地域スケールにおけるスギ人工林の樹高成長の評価). *Forest Ecology and Management*, 506:119953, DOI: 10.1016/j.foreco.2021.119953
49. 小笠真由美、藤井栄（徳島県立農林水産総合技術支援センター）、飛田博順、山下直子、宇都木玄. 山林用針葉樹コンテナ苗における育苗方法の現状と課題－全国のコンテナ苗生産者に対するアンケート調査より－. 日本森林学会誌, 103 (2):105-116
50. 小笠真由美. [コラム2] 木部の通水阻害域の観察法. 樹木医学入門（福田健二（編））（朝倉書店、224頁）、42-44
51. 小笠真由美. アンケートから見るコンテナ苗生産の実態と課題. 造林時報, 212:15-19
52. 齋藤隆実、小笠真由美、飛田博順、小黒芳生、宇都木玄. スギコンテナ苗において、適度に形成された根鉢を識別するしきい値. 日本森林学会大会学術講演集, 133:P120
53. 小笠真由美. 細胞スケール：木部の構造と水輸送. 森林総合研究所関西支所研究情報, 143:4
54. 種子田春彦（東京大学）、小笠真由美、矢崎健一、丸田恵美子（神奈川大学）. 枝の凍結がもたらす針葉樹の新たな通水阻害メカニズム. 日本森林学会大会学術講演集, 133:H8
55. MARUTA Emiko (丸田恵美子・神奈川大学)、YAZAKI Kenich (矢崎健一)、OGASA Mayumi Y (小笠真由美)、TANEDA Haruhiko (種子田春彦・東京大学). Pit aspiration causes an apparent loss of xylem hydraulic conductivity in a subalpine fir (*Abies mariesii* Mast.) overwintering at the alpine timberline (亜高山帯のモミが森林限界での越冬時に木部通水阻害を引き起こすのは壁孔閉鎖が原因である). *Tree Physiology*, 42 (6):1228-1238, <https://doi.org/10.1093/treephys/tpab173>



56. NISHIZAWA Keita (西沢啓太・横国大)、Lucas Deschamps (ケベック大 Trois-Rivières 校)、Vincent Maire (ケベック大 Trois-Rivières 校)、Joël Bêty (ケベック大 Rimouski 校)、Esther Lévesque (ケベック大 Trois-Rivières 校)、KITAGAWA Ryo (北川涼)、MASUMOTO Shota (増本翔太・横国大)、Isabelle Gosselin (ケベック大 Trois-Rivières 校)、Amélie Morneau (ケベック大 Trois-Rivières 校)、Line Rochefort (ラバール大)、Gilles Gauthier (ラバール大)、TANABE Yukiko (田邊優貴子・極地研)、UCHIDA Masaki (内田雅己・極地研)、MORI S Akira (森章・横国大). Long-term consequences of goose exclusion on nutrient cycles and plant communities in the High-Arctic. (高緯度北極圏の窒素循環と植物群集に対するカナダガンの排除の長期的影響). *Polar Science*, 27:100631
57. MATSUOKA Shunsuke (松岡俊将・兵庫県立大)、DOI Hideyuki (土居秀幸・兵庫県立大)、MASUMOTO Shota (増本翔太・横国大)、KITAGAWA Ryo (北川涼)、NISHIZAWA Keita (西沢啓太・横国大)、TANAKA Kaho (田中香穂・同志社大)、HASEGAWA Motohiro (長谷川元洋・同志社大)、HOBARA Satoru (保原達・酪農学園大)、OSONO Takashi (大園享司・同志社大)、MORI S Akira (森章・横国大)、UCHIDA Masaki (内田雅己・極地研). Taxonomic, functional, and phylogenetic diversity of fungi in a forest-tundra ecotone in Québec. (ケベック州の森林ツンドラ推移帯における菌類の分類学的、機能的、および系統学的多様性). *Polar Science*, 27:100594
58. Shu-Kuan WONG (極地研)、KANEKO Ryo (金子亮・極地研)、MASUMOTO Shota (増本翔太・横国大)、KITAGAWA Ryo (北川涼)、MORI S Akira (森章・横国大)、UCHIDA Masaki (内田雅己・極地研). Soil Microbial Composition and Diversity in the Low Arctic Tundra of Salluit. (カナダケベック州 Salluit の土壌微生物データ). *Polar Data Journal*, 5:54-59
59. MASUMOTO Shota (増本翔太・横国大)、KITAGAWA Ryo (北川涼)、NISHIZAWA Keita (西沢啓太・横国大)、KANEKO Ryo (金子亮・極地研)、OSONO Takashi (大園享司・同志社大)、HASEGAWA Motohiro (長谷川元洋・同志社大)、IIMURA Yasuo (飯村康夫・極地研)、MORI S Akira (森章・横国大)、UCHIDA Masaki (内田雅己・極地研). Plant species and biomass, soil respiration, soil environment data on Whapmagoostui-Kuujuarapik, Quebec, Canada. (カナダケベック州 Whapmagoostui-Kuujuarapik の植物種組と土壌環境データ). *Polar Data Journal*, 5:80-88
60. MASUMOTO Shota (増本翔太・横国大)、KITAGAWA Ryo (北川涼)、NISHIZAWA Keita (西沢啓太・横国大)、KANEKO Ryo (金子亮・極地研)、OSONO Takashi (大園享司・同志社大)、HASEGAWA Motohiro (長谷川元洋・同志社大)、IIMURA Yasuo (飯村康夫・極地研)、MATSUOKA Shunsuke (松岡俊将・兵庫県立大)、MORI S Akira (森章・横国大)、KANEKO Ryo (金子亮・極地研)、UCHIDA Masaki (内田雅己・極地研). Integrative assessment of the effects of shrub coverage on soil respiration in a tundra ecosystem. (ツンドラ生態系の土壌呼吸に対する矮小性低木の影響). *Polar Science*, 27:100562
61. MASUMOTO Shota (増本翔太・横国大)、KITAGAWA Ryo (北川涼)、NISHIZAWA Keita (西沢啓太・横国大)、KANEKO Ryo (金子亮・極地研)、OSONO Takashi (大園享司・同志社大)、HASEGAWA Motohiro (長谷川元洋・同志社大)、MATSUOKA Shunsuke (松岡俊将・兵庫県立大)、MORI S Akira (森章・横国大)、UCHIDA Masaki (内田雅己・極地研). Functionally explicit partitioning of plant  $\beta$ -diversity reveal soil fungal assembly in the subarctic tundra (植物の  $\beta$  多様性の分割は亜北極圏ツンドラの土壌真菌の群集集合規則を明らかにする). *FEMS Microbiology Ecology*, 97 (10):fiab129
62. KITAGAWA Ryo (北川涼)、MASUMOTO Shota (増本翔太・横国大)、KANEKO Ryo (金子亮・極地研)、MORI S Akira (森章・横国大)、UCHIDA Masaki (内田雅己・極地研). The contribution of intraspecific trait variation to changes in functional community structure along a stress gradient (環境ストレス傾度上の機能的群集構造の変化と種内変異). *Journal of Vegetation Science*, 33 (1), doi:10.1111/jvs.13112

63. 正木隆、北川涼、中静透、柴田銃江、田中浩（日本森林技術協会）. Interspecific variation in mortality and growth and changes in their relationship with size class in an old-growth temperate forest. (老齢な温帯林における死亡率と成長率の種間変異とサイズクラスに応じた関係性の変化). Ecology and Evolution, 00:1-13
64. 小林慧人、梅村光俊、北山兼弘（京都大学）、小野田雄介（京都大学）. Massive investments in flowers were in vain: mass flowering after a century did not bear fruit in the bamboo *Phyllostachys nigra* var. *henonis*. (花への多量の栄養投資が無駄に：ハチクでは約1世紀ぶりの一斉開花後に結実が見られなかった). Plant Species Biology, 37 (1):78-90, <https://doi.org/10.1111/1442-1984.12358>
65. 小林慧人、小林剛（香川大学）. モウソウチクは実生更新できるか？：高知県土佐市における3年間の調査から. 日本森林学会大会学術講演集、133:H1
66. 小林慧人、北山兼弘（京都大学）、小野田雄介（京都大学）. ハチク群落において10年間の毎竹データから明らかになった自己間引きと隔年の成長リズム. 日本生態学会大会講演要旨集、69:P2-101
67. 大橋瑞江（兵庫県立大学）、小林慧人、久米朋宣（九州大学）. 淡路島のモウソウチク林の土壌圏における炭素動態の解明. 日本生態学会大会講演要旨集、69:P2-196
68. 小林剛（香川大学）、河野晴香（香川大学）、村中梨恵（香川大学）、大藤早織（香川大学）、河合洋人（どんぐりネットワーク、香川大学）、小林慧人. 西日本におけるハチクの大規模開花と開花後林分の様相. 日本生態学会大会講演要旨集、69:P2-120
69. 伊津野彩子、小野田雄介（京都大学）、甘田岳（JAMSTEC）、小林慧人、向井真那（山梨大学）、井鷲裕司（京都大学）、清水健太郎（チューリッヒ大学）. Demography and selection analysis of the incipient adaptive radiation of a Hawaiian woody species. (ハワイ諸島において適応放散的な進化を遂げた樹木のデモグラフィーと自然選択). PLoS Genetics, 18 (1): DOI:10.1371/journal.pgen.1009987
70. 小林慧人. 農林業にも影響を及ぼす放置竹林——解決策を探る. nippon.com, <https://www.nippon.com/ja/in-depth/d00784/>
71. NAKAMURA Masahiro（中村誠宏・北海道大）、KIMURA Megumi（木村恵、56人中18番目）、KUROKAWA Hiroko（黒川紘子、56人中19番目）、KOBAYASHI Keito（小林慧人、56人中34番目）、OTANI Tatsuya（大谷達也、56人中45番目）. Evaluating the soil microbe community-level physiological profile using EcoPlate and soil properties at 33 forest sites across Japan. (EcoPlateを用いた土壌微生物群集レベルの生理的プロファイルと全国33箇所の森林の土壌特性の評価). Ecological Research, 37 (3):432-445, DOI:10.1111/1440-1703.12293
72. 小林慧人. 竹が広がるようになったのはいつから？. 竹、148:25
73. 小林慧人. タケ類開花情報の収集状況（第5報）. 竹林景観ネットワーク研究集会、28:3
74. 小林剛（香川大学）、河野晴香（香川大学）、村中梨恵（香川大学）、大藤早織（香川大学）、河合洋人（どんぐりネットワーク、香川大学）、小林慧人. 西日本におけるハチクの世界最大規模の開花と開花後の更新失敗の可能性. 竹林景観ネットワーク研究集会、28:3
75. 河合洋人（どんぐりネットワーク、香川大学）、大藤早織（香川大学）、河野春香（香川大学）、村中梨恵（香川大学）、小林剛（香川大学）、小林慧人. Google Earthを用いた空中写真解析による開花竹林の抽出と開花開始年の推定. 竹林景観ネットワーク研究集会、28:3



76. NOGUCHI Mahoko (野口麻穂子)、HOSHIZAKI Kazuhiko (星崎和彦・秋田県立大学)、MATSUSHITA Michinari (松下通也)、SUGIURA Daiki (杉浦大樹・秋田県立大学)、YAGIHASHI Tsutomu (八木橋勉)、SAITOH Tomoyuki (齋藤智之)、ITABASHI Tomohiro (板橋朋洋・秋田県立大学)、OHTA Kazuhide (太田和秀・秋田県立大学)、SHIBATA Mitsue (柴田銃江)、HOSHINO Daisuke (星野大介)、MASAKI Takashi (正木隆)、OSUMI Katsuhiko (大住克博・元鳥取大学)、TAKAHASHI Kazunori (高橋和規)、SUZUKI Wajirou (鈴木和次郎). Aboveground biomass increments over 26 years (1993-2019) in an old-growth cool-temperate forest in northern Japan (北日本の冷温帯の老齢林における 26 年間 (1993 年 -2019 年) の地上部バイオマスの増加). *Journal of Plant Research*, 135 (1):69-79, <https://doi.org/10.1007/s10265-021-01358-5>
77. 谷川東子 (名古屋大学)、池野英利 (兵庫県立大学)、藤堂千景 (兵庫県立農林水産技術総合センター森林林業技術センター)、山勢敬太郎 (兵庫県立農林水産技術総合センター森林林業技術センター)、大橋瑞江 (兵庫県立大学)、岡本透、溝口岳男、中尾勝洋、金子真司、鳥居厚志、稲垣善之、中西麻美 (京都大学)、平野恭弘 (名古屋大学). A quantitative evaluation of soil mass held by tree roots (樹木根系が抱きかかえる土壌の量の定量評価). *Trees-Structure and Function*, 35:527-541
78. 岡本透、小松陽介 (立正大学). 母島の地形と地質、父島の地形と地質. 世界自然遺産 小笠原諸島－自然と歴史文化－ (朝倉書店、184 頁)、13-22、23-33
79. TOBITA Hiroyuki (飛田博順)、SHIBATA Mitsue (柴田銃江)、NAKASHIZUKA Tohru (中静透)、SAITOH Tomoyuki (齋藤智之)、KABEYA Daisuke (壁谷大介)、IMAYA Akihiro (今矢明宏)、ONO Kenji (小野賢二)、OKAMOTO Toru (岡本透)、MORISADA Kazuhito (森貞和仁). Evaluation of N<sub>2</sub> fixation in *Alnus* species 35 years after a massive landslide on Mt. Ontake in central Japan. (嶽山の岩屑流跡地に更新したハンノキ属樹種の窒素固定能の攪乱から 35 年目の評価). Abstracts of International Meeting on Frankia and Actinorhizal Plants, 20:34
80. ITOH Yuko (伊藤優子)、OKAMOTO Toru (岡本透)、TAKASE Keiji (高瀬恵次・石川県立大)、HORISAWA Sakae (堀澤栄・高知工科大). Impact of COVID-19 on air pollutants influx into forest ecosystems in Japan. (コロナ禍が及ぼす大気汚染物質の森林生態系への流入影響). Japan Geoscience Union (JpGU) Meeting 2021, AHW22-P04
81. ITOH Yuko (伊藤優子)、KOBAYASHI Masahiro (小林政広)、OKAMOTO Toru (岡本透)、IMAYA Akihiro (今矢明宏)、SAKAI Yoshimi (酒井佳美)、YOSHINAGA Syuiciro (吉永秀一郎). Influence of chronic and excessive nitrogen influx on forest ecosystems connected to the Tokyo metropolitan area. (慢性的な過剰窒素流入が首都圏周辺の森林生態系に与える影響). *Ecological Indicators*, 127:107771
82. 梅村光俊、橋本徹、伊藤江利子、岡本透、鳥居厚志. ササの葉と根から抽出した植物ケイ酸体の粒径分布の特徴. 日本森林学会大会学術講演集、133:P-287
83. 志知幸治、池田重人、岡本透、杉田久志 (富山県森林研究所). 富山県立山地域における完新世のスギの消長. 日本花粉学会大会講演要旨集、62:18
84. 志知幸治、池田重人、岡本透、内山憲太郎. 新潟県阿賀町周辺における最終氷期末期以降の森林変遷とスギの拡大. 日本森林学会大会学術講演集、133:P-280
85. 安井瞭 (土浦日大高・東大新領域)、岡本透. 15 世紀～19 世紀の琉球列島における地域内移入種の導入履歴の復元－造林、養蚕の歴史に着目して－. 九州森林学会大会発表プログラム、77: 講演番号 102
86. 岡本透. ササの開花に関する豆知識. 農業日誌 (令和 4 年)、80-81
87. 井上太貴 (筑波大学)、岡本透、田中健太 (筑波大学). 1722-2010 年にわたる菅平高原の草原面積変遷の定性・定量分析: 国立公園内の草原減少の実態. 保全生態学研究、26:219-228

88. 多田泰之. 林業と国土保全を両立する「杣人の心得」. 森林総合研究所関西支所研究情報、141:1-3
89. 多田泰之. 森林の土砂流出防止・洪水緩和機能の評価と崩さない森づくりについて. 治山シンポジウム概要集、61:47-58
90. 坂部綾香（京都大学）、高梨聡、斉藤拓也（国立環境研究所）. 経験的パラメータを使用しない渦集積法によるフラックス測定システムの検討. 日本農業気象学会全国大会講演要旨集（2021）、FP03
91. 斉藤拓也（国立環境研究所）、坂部綾香（京都大学）、高梨聡、小杉緑子（京都大学）. 経験的なパラメーターに依存しないフラックス測定法－真の渦集積法の開発と検証. 日本地球化学会年会プログラム（2021）、68:PR0054
92. KUMAKURA Mai（鎌倉真依・京都大学）、KOSUGI Yoshiko（小杉緑子・京都大学）、TAKANASI Satoru（高梨聡）、MATSUO Naoko（松尾奈緒子・三重大学）、UEMURA Akira（上村章）、Lion, Marryanna（FRIM）. Temporal fluctuation of patchy stomatal closure in leaves of *Dipterocarpus sublamellatus* at upper canopy in Peninsular Malaysia over the last decade. （半島マレーシアにおける過去数十年間にわたる *Dipterocarpus sublamellatus* の不均一な気孔開閉特性）. *Tropics*、30（3）:41-51
93. TSUJI Chiaki（辻千晃・京都大学）、DANNOURA Masako（檀浦正子・京都大学）、Desalme, Dorine（Université de Lorraine, AgroParisTech, INRAE, UMR Silva）、Angeli, Nicolas（Université de Lorraine, AgroParisTech, INRAE, UMR Silva）、TAKANASHI Satoru（高梨聡）、KOMINAMI Yuji（小南裕志）、Epron, Daniel（京都大学）. Drought affects the fate of non-structural carbohydrates in hinoki cypress（乾燥がヒノキの非構造化炭素の行方に与える影響）. *Tree Physiology*、42（4）:784-796、DOI:10.1093/treephys/tpab135
94. 高梨聡、小南裕志、深山貴文、檀浦正子（京都大学）. ナラ枯れ被害のあった暖温帯広葉樹林の二酸化炭素交換特性. 日本森林学会大会学術講演集、133:P-333
95. 檀浦正子（京都大学）、高梨聡、小杉緑子（京都大学）、Epron, Daniel（京都大学）、田邊智子（京都大学）、Wang, Shitephen（京都大学）、藤井黎（京都大学）. <sup>13</sup>C パルスラベリングを用いたヒノキの師部輸送の日変動. 日本森林学会大会学術講演集、133:P-337
96. Schaefer, Holger（学振PD）、高梨聡. 菌根菌糸生産・分解の高頻度測定手法の開発. 日本森林学会大会学術講演集、133:P-430
97. 深山貴文、高梨聡、小南裕志、吉藤奈津子、岡野通明. 化学発光法を用いた低コストなイソプレンフラックス連続観測手法の開発. 日本森林学会大会学術講演集、133:P-336
98. 深山貴文、高梨聡、小南裕志、吉藤奈津子、岡野通明. コナラ林における夏季のイソプレンフラックスの日変動特性. 日本農業気象学会全国大会講演要旨集（2022）、JP-26
99. 片山歩美（九州大学）、安宅未央子（京都大学生存圏）、高梨聡、久米朋宣（九州大学）. モウソウチク科 CO<sub>2</sub> 放出の日変化－温度と樹液流速の影響－. 日本生態学会大会講演要旨集、69:P2-169
100. 大澤光、土井一生（京大防災研）、荒井紀之（京大防災研）、山川陽祐（筑波大学）、渡壁卓磨. 崩壊斜面源頭部に広がる線状凹地の地下構造の推定（Estimation of subsurface structure in the linear depression spreading over the landslide crown）. 日本地球惑星科学連合大会（2021）、HDS10-04
101. 渡壁卓磨、大澤光、荒井紀之（京都大学）、土井一生（京都大学）、山川陽祐（筑波大学）. 山地上流において穿入蛇行が開始する条件－高角な層理面をもつ東河内川の事例－. 日本地球惑星科学連合大会（2021）、H-GM03

102. 大澤光、土井一生 (京大防災研)、荒井紀之 (京大防災研)、山川陽祐 (筑波大学)、渡壁卓磨. 線状凹地の発達する大規模地すべり地における地下構造の推定 (Estimation of Subsurface Structures in Landslide Areas with Linear Depressions). 京都大学防災研究所研究発表講演会 (令和3年度)、D117 (口頭発表)
103. 馬場俊明 (京都大学)、松四雄騎 (京都大学)、渡壁卓磨. 花崗岩山地の隣接源流域における土層発達および降雨流出過程の比較研究. 京都大学防災研究所研究発表講演会 (令和3年度)、P22
104. 金子真司、浅野真希 (筑波大学)、今矢明宏 (国際農研)、川東正幸 (東京都立大学)、高田裕介 (農研機構)、田中治夫 (東京農工大学)、前島勇治 (農研機構)、三浦英樹 (国立極地研究所). 土壌調査ハンドブックの改訂内容. 日本ペドロロジー学会大会講演要旨集 (2021)、:39
105. ISHIZUKA Shigehiro (石塚成宏)、HASHIMOTO Shoji (橋本昌司)、KANEKO Shinji (金子真司)、TSURITA Kenji (鶴田健二・森林総研PD)、KIDA Kimihiro (木田仁廣)、AIZAWA Shuhei (相澤州平)、HASHIMOTO Toru (橋本徹)、ITO Eriko (伊藤江利子)、UMEMURA Mitsutoshi (梅村光俊)、SHINOMIYA Yoshiki (篠宮佳樹)、MORISHITA Tomoaki (森下智陽)、NOGUCHI Kyotaro (野口享太郎)、ONO Kenji (小野賢二)、OKAMOTO Toru (岡本透)、MIZOGUCHI Takeo (溝口岳男)、TORII Atsushi (鳥居厚志)、SAKAI Hisao (酒井寿夫)、INAGAKI Yoshiyuki (稲垣善之)、SHICHI Koji (志知幸治)、TORIYAMA Jumpei (鳥山淳平)、SAKAI Yoshimi (酒井佳美)、INAGAKI Masahiro (稲垣昌宏)、SHIRATO Yasuhito (白戸康人・農環研)、OBARA Hiroshi (小原洋・農環研)、KOHYAMA Kazunori (神山和則・農環研)、TAKATA Yuusuke (高田裕介・農環研)、KATAYANAGI Nobuko (片柳薫子・農環研)、KANDA Takashi (神田隆志・農環研)、INOUE Haruna (井上美那・農環研)、KUSABA Takashi (草場敬・九沖農研). Soil carbon stock changes due to afforestation in Japan by the paired sampling method on an equivalent mass basis. (ペアサンプリングと質量均等法を用いた日本の森林への土地利用変化における土壌炭素蓄積量の変化について). Biogeochemistry, 153 (3):263-281、<https://doi.org/10.1007/s10533-021-00786-8>
106. 山下尚之、石塚成宏、橋本昌司、鶴川信 (鹿児島大学)、南光一樹、大曾根陽子 (元森林総研PD)、岩橋純子 (国土地理院)、酒井佳美、稲富素子 (農業・食品産業技術総合研究機構)、川西あゆみ (森林総研非常勤職員)、森貞和仁、田中永晴、相澤州平、今矢明宏、高橋正通 (国際緑化推進センター)、金子真司、三浦覚、平井敬三. National-scale 3D mapping of soil organic carbon in a Japanese forest considering microtopography and tephra deposition. (微地形とテフラ沈着を考慮した日本の森林における国家規模の3次元土壌有機炭素マッピング). Geoderma, 406:115534、<https://doi.org/10.1016/j.geoderma.2021.115534>
107. 山下尚之、石塚成宏、橋本昌司、鶴川信 (鹿児島大学)、南光一樹、大曾根陽子 (元森林総研PD)、岩橋純子 (国土地理院)、酒井佳美、稲富素子 (農業・食品産業技術総合研究機構)、川西あゆみ (森林総研非常勤職員)、森貞和仁、田中永晴、相澤州平、今矢明宏、高橋正通 (国際緑化推進センター)、金子真司、三浦覚、平井敬三. AIを活用して高精細な森林土壌炭素貯留量の日本地図を作成. 森林総合研究所第4期中長期計画成果集、18-19
108. 金子真司、浅野真希 (筑波大学)、今矢明宏、川東正幸 (東京都立大学)、高田裕介 (農研機構)、田中治夫 (東京農工大学)、前島勇治 (農研機構)、三浦英樹 (国立極地研究所). 土壌調査ハンドブックの改訂内容. ペドロジスト、65 (1):50
109. 金子真司、浅野真希 (筑波大学)、今矢明宏、川東正幸 (東京都立大学)、高田裕介 (農研機構)、田中治夫 (東京農工大学)、前島勇治 (農研機構)、三浦英樹 (国立極地研究所). 土壌調査ハンドブック改訂新版. 土壌調査ハンドブック改訂新版 (日本ペドロロジー学会編、博友社、194頁)
110. 金子真司、浅野真希 (筑波大学)、今矢明宏、川東正幸 (東京都立大学)、高田裕介 (農研機構)、田中治夫 (東京農工大学)、前島勇治 (農研機構)、三浦英樹 (国立極地研究所). 「土壌調査ハンドブックの改訂新版」の刊行. ペドロジスト、65 (1):42-45
111. 金子真司. 新刊紹介「森林の放射線生態学、福島のを考える」. 森林立地、63 (1):19

112. 金子真司. 書評「森林の放射線生態学、福島森を考える」. 日本土壤肥科学雑誌、92 (4):399
113. TAMURA Kenji (田村憲司・筑波大学)、MIURA Hideki (三浦英樹・国立極地研)、KANEKO Shinji (金子真司)、SANO Tetsuya (佐野哲也・東北工大)、KUBODERA Hideo (久保寺秀夫・農研機構). 2 Soil-Formig Factor (第2章土壌生成因子). The Soils of Japan (Hatano, R., Shinjo, H., Takata, Y. (Eds.)), 38-45
114. 篠宮佳樹、三浦覚、阪田匡司、坂下渉、高野勉、池田重人、荒木眞岳、平井敬三、小林政広、橋本昌司、今村直広、平出政和、小松雅史、大橋伸太、金子真司、金指努 (福島大学). 放射性セシウムは依然として表層土壌に残っていたー森林における長期観測と、きのこ及びきのこ原木林の利用再開の手がかりー. 森林総合研究所第4期中長期計画成果集、12-13
115. 眞中卓也、小松雅史、坂下渉、今村直広、橋本昌司、平井敬三、三浦覚、金子真司、小林政広、阪田匡司、篠宮佳樹. 福島第一原発事故後10年間における森林土壌中の放射性セシウム分布の変動. 日本森林学会大会学術講演集、133:T3-1
116. 山中高史、谷口武士 (鳥取大学)、小川泰浩、今矢明宏、金子真司、大丸裕武. Distribution of *Frankia* and ectomycorrhizal fungi in a denuded volcanic soil exposed by a landslide during heavy rainfall caused by Typhoon No. 26 (Wipha) in 2013 (2013年伊豆大島豪雨による地滑りにより露出した土壌中のフランキア菌と外生菌根菌の分布). Journal of Forest Research、27 (2):133-139、DOI:10.1080/13416979.2022.2026558
117. 稲垣善之、酒井寿夫、鳥居厚志、篠宮佳樹、藤井一至. 四万十川森林流域における塩素の動態. 日本地球惑星科学連合大会 (2021)、MIS11-09
118. 稲垣善之、酒井寿夫、鳥居厚志、篠宮佳樹、藤井一至. Twenty-year changes of stream water chemistry in a forest ecosystem in the Shimanto River Basin. (四万十流域の森林生態系における20年間における渓流水質の変化). The EAFES abstract book、9:93
119. 市原優、服部力、松永孝治、高橋由紀子. 強風によるスギ幹折れ被害における非赤枯性溝腐病による辺材腐朽の状況. 森林防疫、70 (4):3-9
120. 市原優. 強風によるスギの幹折れに認められた非赤枯性溝腐病の辺材腐朽 (表紙解説). 森林防疫、70 (4):1-2
121. 市原優、服部力、松永孝治、高橋由紀子. 風倒被害を受けたスギ人工林における非赤枯性溝腐病による辺材腐朽の状況. 日本森林学会大会学術講演集、133:P-433
122. 中村克典、水田展洋 (宮城県技術総合センター)、相川拓也、磯野昌弘、市原優、小澤洋一 (岩手県林業技術センター). The decline of *Pinus thunbergii* and *P. densiflora* trees in coastal forests from the mega-tsunami following the Great East Japan Earthquake (東日本大震災後の巨大津波を受けた海岸林クロマツとアカマツの衰弱枯死). Journal of Forest Research、26 (6):427-436、doi 10.1080/13416979.2021.1964150
123. AIKAWA Takuya (相川拓也)、MAEHARA Noritoshi (前原紀敏)、ICHIHARA Yu (市原優)、MASUYA Hayato (升屋勇人)、NAKAMURA Katsunori (中村克典)、ANBUTSU Hisashi (安佛尚志・産総研). Cytoplasmic incompatibility in the semivoltine longicorn beetle *Acalolepta fraudatrix* (Coleoptera: Cerambycidae) double infected with *Wolbachia* (ボルバキアに二重感染している2年1化性カミキリムシ、ビロウドカミキリにおける細胞質不適合). PLoS ONE、17 (1)、10.1371/journal.pone.0261928
124. 山中高史、小長谷啓介、中村慎崇、仲野翔太 (ホクト産業株式会社、元森林総研PD)、古澤仁美、下川知子、野口享太郎、市原優、木下晃彦. 国産トリュフの栽培を目指す. 森林総合研究所第4期中長期計画成果集、80-81



125. 八木橋勉、関伸一、中谷友樹（東北大学大学院環境科学研究科）、中田勝士（環境省やんばる自然保護官事務所）、小高信彦. Eradication of the mongoose is crucial for the conservation of three endemic bird species in Yambaru, Okinawa Island, Japan. (沖縄島やんばるの固有鳥類3種の保全にはマンガースの防除が不可欠である). *Biological Invasions*, 23:2249-2260
126. 関伸一. 高島とその周辺海域で観察された鳥類. *Bungoensis*, 4:34-39
127. 関伸一. 島にいれば固有亜種になれる?: 伊豆諸島におけるコマドリの遺伝的分化. 日本鳥学会大会講演要旨集 (2021), 58 (B12)
128. 関伸一、安田雅俊. 瀬戸内海南縁部におけるオオミズナギドリの新たな集団繁殖地の発見. *Bird Research*, 17:S1-S8
129. 小高信彦、赤井慎太（奄美野鳥の会）、東竜一郎（辺土名高校）、石原鈴也（東村立山と水の生活博物館）、川口秀美（奄美野鳥の会）、木元侑菜（奄美海洋生物研究会）、久高将洋（YambaruGreen）、迫田拓（沖縄県環境科学センター）、関伸一、渡久地豊（工房リュウキュウロビン）、鳥飼久裕（奄美野鳥の会）、永井弓子（奄美野鳥の会）、平城達哉（奄美市立奄美博物館）、寛山一郎（徳之島虹の会）、水田拓（山階鳥類研究所）、八木橋勉、山室一樹（奄美野鳥の会）。沖縄島北部、奄美大島、徳之島における鳥類の繁殖分布と世界自然遺産のゾーニング。九州森林学会大会発表プログラム、77: 講演番号 719
130. 小高信彦、赤井慎太（奄美野鳥の会）、東竜一郎（辺土名高校）、石原鈴也（東村立山と水の生活博物館）、川口秀美（奄美野鳥の会）、木元侑菜（奄美海洋生物研究会）、久高将洋（YambaruGreen）、迫田拓（沖縄県環境科学センター）、関伸一、渡久地豊（工房リュウキュウロビン）、鳥飼久裕（奄美野鳥の会）、永井弓子（奄美野鳥の会）、平城達哉（奄美市立奄美博物館）、寛山一郎（徳之島虹の会）、水田拓（山階鳥類研究所）、八木橋勉、山室一樹（奄美野鳥の会）。沖縄島北部、奄美大島、徳之島における鳥類の繁殖分布と世界自然遺産のゾーニング。九州森林研究、75:63-70
131. 神崎菜摘. マツノザイセンチュウ近縁種の媒介昆虫利用様式. 樹木医学入門（福田健二（編））（朝倉書店、224頁）、138-139
132. Mehmet Dayi（宮崎大・医）、神崎菜摘、Simo Sun（宮崎大・医）、井手竜也（科博）、田中龍聖（宮崎大・医）、升屋勇人、岡部貴美子、菊地泰生（宮崎大・医）。Additional description and genome analyses of *Caenorhabditis auriculariae* representing the basal lineage of genus *Caenorhabditis*. (*Caenorhabditis* 属の祖先型系統群に属する *Caenorhabditis auriculariae* の追加記載とゲノム解析). *Scientific Reports*, 11:6720
133. 神崎菜摘、Matthias Herrmann（マックスプランク発生生物学研究所）、Christian Weiler（マックスプランク発生生物学研究所）、Waltraud Röseler（マックスプランク発生生物学研究所）、Tobias Thesk（マックスプランク発生生物学研究所）、Jurgen Berger（マックスプランク発生生物学研究所）、Christian Rödelberger（マックスプランク発生生物学研究所）、Ralf J. Sommer（マックスプランク発生生物学研究所）。Nine new *Pristionchus* (Nematoda:Diplogastridae) species from China. (*Pristionchus* 属の中国産9新種). *Zootaxa*, 4943:1-66
134. 神崎菜摘、市原優、相川拓也、浴野泰甫（明治大・農）、升屋勇人. Present status of Beech Leaf Disease research in Japan. (日本におけるブナ葉ぶくれ症状に関する研究の現状). *International Beech Leaf Disease Workshop*, 2:Presentation No.4
135. 神崎菜摘、濱口京子、竹内祐子（京大・地球環境）。*Chylorhabditis epuraeae* n. gen., n. sp. (Rhabditida: Rhabditidae) isolated from *Epuraea* (*Haptoncus*) *ocularis* Fairmaire collected from sap on the bark of *Ulmus parvifolia* Jacq. in Kyoto, Japan. (京都のアキニレ樹液で採集したモンチビヒラタケシキスイ虫体より分離された新属新種線虫、*Chylorhabditis epuraeae*). *Nematology*, 23:435-449, DOI:10.1163/15685411-bja10051



136. 神崎菜摘. Isolation of *Bursaphelenchus macromucronatus* from commercialised artificial larval diet for stag beetles in Japan. (一般流通するクワガタムシ用人工飼育資材からの *Bursaphelenchus macromucronatus* の検出). *Nematology*, 23:587-596, DOI:10.1163/15685411-bja10059
137. 神崎菜摘、濱口京子. *Pristionchus trameses* n. sp. (Diplogastridae) isolated from the mushroom *Trametes orientalis* in Kyoto, Japan. (京都のクジラタケから分離された、新種、*Pristionchus trameses*). *Journal of Nematology*, 53:e2021-60, DOI:10.21307/jofnem-2021-060
138. 神崎菜摘. Description of *Ruehmaphelenchus fujensis* n. sp. (Tylenchomorpha: Aphelenchoididae) isolated from dead wood of *Quercus crispula* from Yamanashi, Japan. (山梨県のミズナラ枯死木から分離された新種、*Ruehmaphelenchus fujensis* の記載). *Nematology*, 23:725-742, DOI:10.1163/15685411-bja10072
139. 神崎菜摘、浴野泰甫 (明治大・農)、梶村恒 (名古屋大・農)、出川洋介 (筑波大・山岳科学). Description of *Bursaphelenchus microcarpae* n. sp. isolated from *Cryphalus abbreviatus* emerged from *Ficus microcarpa*, with a report of *B. carpini* reisolation. (ガジュマルから羽化脱出したガジュマルノコキクイムシより分離した新種、*Bursaphelenchus microcarpae* の記載と、*B. carpini* の再分離報告). *Nematology*, 23:743-759, DOI:10.1163/15685411-bja10073
140. 神崎菜摘. Description of *Basilaphelenchus pedrami* n. sp. (Tylenchomorpha: Aphelenchoididae) isolated from Kyoto, Japan. (京都で分離された新種線虫 *Basilaphelenchus pedrami* の記載). *Nematology*, 23:803-816, DOI:10.1163/15685411-bja10078
141. Meike S. Kruger (プレトリア大)、神崎菜摘、Robin M. Giblin-Davis (フロリダ大)、Jaco M. Greeff (プレトリア大). Molecular diversity and relationships of fig associated nematodes from South Africa. (南アフリカのイチジク属果実関連線虫の遺伝的多様性と関係). *PLoS ONE*, 16 (8):e0255451, DOI:10.1371/journal.pone.0255451
142. 神崎菜摘、山下達矢 (明治大)、James Siho Lee (カリフォルニア工科大)、Pei-Yin Shih (カリフォルニア工科大)、Erik J. Ragsdale (インディアナ大)、新屋良治 (明治大). *Tokorhabditis* n. gen. (Rhabditida, Rhabditidae), a comparative nematode model for extremophilic living. (極限環境生息比較モデル線虫の新属、*Tokorhabditis*). *Scientific Reports*, 11: DOI:10.1038/s41598-021-95863-1
143. 神崎菜摘. Nematode isolation from nitidulid beetles with a proposal of *Sheraphelenchus heterophallus* n. comb. (ケシキスイからの線虫分離と *Shearphelenchus heterophallus* n. comb. の分類学的整理). *Nematology*, 23:897-908, DOI:10.1163/15685411-bja10084
144. MAMIYA Yasuharu (真宮靖治・元玉川大)、AKIBA Mitsuteru (秋庭満輝)、EKINO Taisuke (浴野泰甫・明治大)、KANZAKI Natsumi (神崎菜摘). Morphology, molecular profiles and distribution of the Japanese populations of *Steinernema tielingense* Ma, Chen, Li, Han, Khatri-Chhetri, De Clercq & Moens, 2012 (Rhabditida: Steinernematidae). (*Steinernema tielingense* 日本個体群の形態、分子同定および分布). *Nematology*, 23:909-928, DOI:10.1163/15685411-bja10085
145. 神崎菜摘. New insight into the tripartite relationship of microbes, nematodes and insects. (微生物、線虫、昆虫の三者系に関する新たな見識). *Environmental Microbiology*, 23:4856-4858, DOI:10.1111/1462-2920.15456
146. Tong, X. (北大・院・農)、神崎菜摘、秋元信一 (北大・院・農). First record of a mermithid nematode (Nematoda: Mermithidae) parasitizing winged females of gall-forming aphids (Hemiptera: Aphididae: Eriosomatinae). (ゴール形成アブラムシ類からのシヘンチュウ類の初報告). *Entomological Science*, 24:354-360, DOI:10.1111/ens.12486

147. 神崎菜摘. Convergence and diversification of fig-associated nematodes: a model system for adaptation. (イチジク属植物内部居住線虫における収斂と多様化: 適応モデルとして). International Conference on Agriculture and Bioindustry (ICAGRI)、3:Keynote 3
148. 神崎菜摘、Hou-Feng LI (中興大学・台湾)、浴野泰甫 (明治大・農)、竹内祐子 (京大・地球環境)、前原紀敏、相川拓也. Description of *Aphelenchoides roulingae* n. sp. (Tylenchomorpha: Aphelenchoididae) isolated from *Xylocopa collaris sauteri* collected from Yilan, Taiwan, with some notes on *A. xylocopae* Kanzaki, 2006. (台湾のクマバチから分離された新種線虫 *Aphelenchoides roulingae* の記載と、その近縁種 *A. xylocopae* に関する追加記載). Nematology、23:1093-1107、DOI:10.1163/15685411-bja10097
149. 神崎菜摘、津田格 (岐阜森林文化アカデミー)、秋庭満輝、浴野泰甫 (明治大・農)、澤畠拓夫 (近大・農)、小坂肇. Phylogenetic status of *Iotonchium* Cobb, 1920 and a note on the distribution of *I. ungulatum* Aihara, 2001. (*Iotonchium* 属の系統的位置づけと、ヒラタケ白こぶ線虫の分布に関して). Nematology、23:1205-1209、DOI:10.1163/15685411-bja10108
150. 神崎菜摘、辻本悟志 (沖縄美ら島財団)、梶村恒 (名古屋大・農). *Bursaphelenchus hibisci* n. sp. (Nematoda: Aphelenchoididae) isolated from *Ernoporus corpulentus* (Scolytinae) emerged from dead *Hibiscus tiliaceus* (Malvaceae) twigs from Okinawa, Japan. (オオハマボウ枯れ枝から脱出したオオハマボウノコキクイムシ虫体より分離した新種線虫 *Bursaphelenchus hibisci*). Nematology、24:21-36、DOI:10.1163/15685411-bja10109
151. 神崎菜摘、浴野泰甫 (明治大)、出川洋介 (筑波大・山岳科学). *Cryptaphelenchus abietis* n. sp. (Tylenchomorpha: Aphelenchoididae) isolated from *Cryphalus piceae* (Ratzeburg) (Coleoptera: Scolytinae) emerged from *Abies veitchii* Lindl. (Pinaceae) from Nagano, Japan (長野県のシラベ枯死木から脱出したトドマツノコキクイムシより分離した新種線虫、*Cryptaphelenchus abietis*). Nematology、24:65-84、DOI:10.1163/15685411-bja10112
152. 市石宙 (明治大・農)、浴野泰甫 (明治大・農)、神崎菜摘、新屋良治 (明治大・農). A thick nematode cuticle is useful for physical defense against predators. (線虫の肥厚した角皮は捕食防御に有効である). Nematology、24:11-20、DOI:10.1163/15685411-bja10107
153. 神崎菜摘、濱口京子、竹内祐子 (京大・地球環境). *Devibursaphelenchus alienae* n. sp. isolated from the bark of dead *Quercus aliena* in Japan. (アベマキ枯死木の樹皮より分離した新種線虫、*Devibursaphelenchus alienae*). Nematology、24:205-224、DOI:10.1163/15685411-bja10125
154. 神崎菜摘、梶村恒 (名大・農)、升屋勇人、秋庭満輝、浴野泰甫 (明大・農)、辻本智志 (沖縄美ら島財団)、小坂肇. Two new insect-associated tylenchids, *Sychnotylenchus hibisci* n. sp. and *Neoditylenchus xiphydriae* n. sp. (Tylenchomorpha: Anguinidae) from Japan (Sychnotylenchidae 亜科の2新種、*Sychnotylenchus hibisci* と *Neoditylenchus xiphydriae*). Nematology、24:257-282、DOI:10.1163/15685411-bja10128
155. 古澤仁美、八代田千鶴. 捕獲個体の埋設による周辺環境への影響. WILDLIFE FORUM、25 (2):26-27
156. 飯島勇人、永田純子、岡輝樹、相川拓也、高橋裕史、八代田千鶴、近藤洋史、寺田行一 (株マップクエスト)、諸澤崇裕 (自然環境研究センター)、川本朋慶 (自然環境研究センター)、荒木良太 (自然環境研究センター)、石田朗 (愛知県森林・林業技術センター)、釜田淳志 (愛知県森林・林業技術センター)、狩場晴也 (愛知県森林・林業技術センター). ニホンジカは2050年までにその勢力を全国に拡大すると予測されます. 森林総合研究所研究成果選集2021 (令和3年版)、18-19
157. 八代田千鶴、柳澤賢一 (長野県林業総合センター). 長野県におけるシカの生息分布域拡大がカモシカの生息状況に及ぼす影響. 日本哺乳類学会大会講演要旨集 (2021)、:138 (P-135) (ポスター)

158. 八代田千鶴、岸本康誉（野生動物保護管理事務所）、大場孝裕（静岡県森林・林業研究センター）。森林に生息するシカを誰がどのように管理していくのか？今後の展望を考える。日本哺乳類学会大会講演要旨集（2021）、:39（F12）（自由集会）
159. 平田滋樹（農研機構）、小坂井千夏（農研機構）、八代田千鶴、亘悠哉。錯誤捕獲をめぐる課題、次の一歩。日本哺乳類学会大会講演要旨集（2021）、:42（F15）（自由集会）
160. 八代田千鶴、山口浩和、陣川雅樹。森林内で捕獲したシカ個体運搬機材の開発。「野生生物と社会」学会大会プログラム・講演要旨集、26:75（P-39）
161. 八代田千鶴。人口減少・高齢化社会の向かう未来－無居住化したあとの森林生態系保全に向けた取組。「野生生物と社会」学会大会プログラム・講演要旨集、26:19-21（TS-01-4）
162. 八代田千鶴、柳澤賢一（長野県林業総合センター）。長野県におけるシカの生息分布域拡大がカモシカの生息状況に及ぼす影響。日本生態学会大会講演要旨集、69:P2-278
163. 八代田千鶴、永美暢久（株式会社百森）、田畑直（株式会社百森）。遠隔通知システムを利用した再造林地周辺におけるシカ捕獲。日本森林学会大会学術講演集、133:P-397
164. 八代田千鶴。森林内で捕獲したシカ個体を運搬する機材の開発。森林総合研究所関西支所研究情報、140:2-3
165. 八代田千鶴。森林に生息するシカを誰がどのように管理するのか－持続的なシカ管理体制の構築に向けて－。林経協季報柚径、62:14-21
166. 八代田千鶴、山口浩和、陣川雅樹。森林内で捕獲したシカ個体運搬機材の開発。とちぎ野生動物研究交流会、19:K7
167. 八代田千鶴。既往捕獲技術のスマート化によるシカの低密度維持手法の開発。「AIやIoTによる、人材育成も可能なスマート獣害対策の技術開発と多様なモデル地区による地域への適合性実証研究」成果報告集、:15
168. SUNAMURA Eiriki（砂村栄力）、TAMURA Shigeaki（田村繁明・森林総研PD）、TAKI Hisatomo（滝久智）、SATO Hiroki（佐藤大樹）、SHODA-KAGAYA Etsuko（加賀谷悦子）、URANO Tadahisa（浦野忠久）。Efficacy of two neonicotinoid insecticides against invasive wood borer *Aromia bungii* larvae in dietary toxicity test（室内食毒試験におけるネオニコチノイド系殺虫剤2種の侵略的外来種クビアカツヤカミキリ幼虫に対する効果）。Insects、12（7）:592
169. 砂村栄力、田村繁明、滝久智、佐藤大樹、加賀谷悦子、浦野忠久。ネオニコチノイド系殺虫剤2種のクビアカツヤカミキリ幼虫に対する室内食毒試験。日本環境動物昆虫学会年次大会要旨集、33:38
170. 浦野忠久、江崎功二郎（石川県農林総合研究センター 林業試験場）、井上重紀（元福井県総合グリーンセンター）。北陸地方におけるサビマダラオオホソカタムシの新たな採集記録と成虫の飼育。森林防疫、71（2）:12-16
171. URANO Tadahisa（浦野忠久）、TAKI Hisatomo（滝久智）、SHODA-KAGAYA Etsuko（加賀谷悦子）。Comparison of the Ecological Traits and Boring Densities of *Aromia bungii* (Faldermann, 1835) (Coleoptera: Cerambycidae) in Two Host Tree Species. (クビアカツヤカミキリの2寄主樹幹間における生態的特性および穿入密度の比較)。Insects、13（2）:151、doi:10.3390/insects13020151
172. 浦野忠久。クビアカツヤカミキリ室内飼育における死亡率および蛹化法の検討。日本応用動物昆虫学会大会講演要旨集、66:O417
173. 濱口京子、後藤秀章、佐藤重穂、神崎菜摘。伊豆諸島、対馬、小豆島および四国におけるカシノナガキクイムシの遺伝的変異。日本森林学会誌、103（3）:237-241

174. 濱口京子、佐藤隆士（京都市）. クロヤマアリの餌構成に関する一観察. 蟻, 42:41-48
175. 濱口京子、神崎菜摘、佐藤隆士（京都市）、木野村恭一（岐阜市）、秋野順治（京都工繊）. アリとアリヅカコロギの腸内微生物叢について. 日本応用動物昆虫学会大会講演要旨集, 66:PG4-06
176. 濱口京子、神崎菜摘. フラスからのカシノナガキクイムシの識別. 日本森林学会大会学術講演集, 133:P-405
177. 齋藤和彦. 明治 39 年勅令第 191 号の造林保護に関わる旧杣山の払下先は間切だった. 沖縄文化協会公開研究発表会（オンライン発表）要旨集（2021）、:5
178. Jason PREBLE（京大院）、Christian VINCENOT（京大院）、SAITO Kazuhiko（齋藤和彦）、OHTENobuhito（大手信人）（京大院）. Roosting ecology of endangered plant-roosting bats on Okinawa Island: implications for bat-friendly forestry practices. (沖縄島における絶滅危惧植物性コウモリのねぐらに関する生態：コウモリに配慮した森林施業のための示唆). Ecology and Evolution, 11 (20):1-11
179. 齋藤和彦. やんばるの世界自然遺産の基盤を残した林発第 224 号内訓. 亜熱帯森林・林業研究会発表要旨集（令和 3 年度）、:4
180. KOTAKA Nobuhiko（小高信彦）、Preble Jason（京都大学大学院）、SAITO Kazuhiko（齋藤和彦）、TOGUCHI Yutaka（渡久地豊・工房リュウキュウロビン）、KUDAKA Masahiro（久高将洋・Ymabaru Green）、SAKODA Taku（迫田拓・沖縄県環境科学センター）、YAGIHASHI Tsutomu（八木橋勉）. Recent nest tree use by the critically endangered Okinawa woodpecker in relation to forest age and two exotic forest pests. (絶滅危惧種ノグチゲラによる営巣木利用と林齢及び二つの外来樹木病虫害との関係). Journal of Forest Research, 26 (3):192-200
181. TAKASHIMA Atsushi（高嶋敦史・琉球大学農学部附属亜熱帯フィールド科学教育研究センター）、NAKANISHI Akira（中西晃・琉球大学農学部附属亜熱帯フィールド科学教育研究センター）、MORISHITA Mina（森下美菜・琉球大学農学部）、ABE Shin（阿部真）、SAITO Kazuhiko（齋藤和彦）、KOTAKA Nobuhiko（小高信彦）. Tree-cavity formation in the mature subtropical forests of Yambaru, Okinawa Island (沖縄島やんばる地域の成熟した亜熱帯林における樹洞の形成). Journal of Forest Research, 26 (6):410-418, <https://doi.org/10.1080/13416979.2021.1955440>
182. 小高信彦、中田勝士（南西環境研究所）、齋藤和彦、八木橋勉. 絶滅危惧種による樹洞利用パターン；持続可能な森林管理への提言. 日本生態学会大会講演要旨集, 69:S03-05
183. 齋藤和彦. 振り返ると近代沖縄の杣山整理は周到な入会整理・部落有林野統一事業だった. 林業経済学会秋季大会学術講演集（2021）（オンライン開催）、:75
184. 安部哲人、阿部真、宮本麻子、齋藤和彦. やんばるの森の林齢と植物群集の生態的特徴. 日本生態学会大会講演要旨集, 69:S03-2
185. 齋藤和彦. 世界自然遺産「沖縄やんばる」の森の今昔. 森林総合研究所関西支所公開講演会要旨集「森林（もり）の今昔物語」（令和 3 年度）、:5
186. Jason H PREBLE（京大院）、Christian E VINCENOT（京大院）、齋藤和彦、大手信人（京大院）. ヤンバルホオヒゲコウモリは老齢林の河川に依存している？. 日本生態学会大会講演要旨集, 69:S03-4
187. 平野悠一郎. 登山道は誰のものか. 登山研修, 36:87-92



188. 青井秀樹、田中亘、久保山裕史、山本伸幸、石崎涼子、都築伸行、志賀薫、早船真智、道中哲也、杉山真樹、嶋瀬拓也、天野智将、平野悠一郎、垂水亜紀、横田康裕、岩永青史（名古屋大学）、岡裕泰（国際農林水産業研究センター）、国産広葉樹の家具・内装材用途での活用に向けて、森林総合研究所第4期中長期計画成果集、46-47
189. 平野悠一郎、レクリエーション、森林と法（小賀野晶一・奥田進一編）（成文堂）、111-126
190. 平野悠一郎、登山道の多様な利用を調整する制度の必要性：トレイルランニングをめぐる問題から、これでいいのか登山道：正しい「山の道」への課題を考える（登山道法研究会編）（山と溪谷社（ヤマケイ新書））、150-161
191. 平野悠一郎、森林所有者の立場に即した「森林サービス産業」の発展とは？：アメリカ・日本の事例から、林経協季報柚径、61:17-23
192. 平野悠一郎、書評：飯國芳明ほか編『土地所有権の空洞化：東アジアからの人口論的展望』、林業経済、74（2）:23-27
193. 平野悠一郎、新たな森林の有効活用に向けた課題と解決策の提示、森林総合研究所第4期中長期計画成果集、48-49
194. 平野悠一郎、森林への多様な価値を反映する制度的基盤：アメリカの保全地役権等を事例として、森林所有権制度研究会、9:1
195. HIRANO Yuichiro（平野悠一郎）、Cultural FES and Emerging New Forest Utilization in Japan.（日本における森林の文化的生態系サービスと新たな森林利用の勃興）、Exploring the importance of Cultural Forest Ecosystem Services in an international perspective: Towards new forest-related business opportunities? European — Japanese Online Symposium（上智大学主催）、3
196. 平野悠一郎、森林をめぐる価値研究の意義と可能性、森林の多面的機能研究会（滋賀県琵琶湖環境科学研究センター主催）、5:1
197. 平野悠一郎、文化的サービス・森林サービス産業関連：政策分野の研究方向、文化的生態系サービス・森林サービス産業研究会（森林総合研究所）、2
198. 平野悠一郎、はじめに（巻頭言）、日本のマウンテンバイカーをめぐる社会状況と課題、マウンテンバイカーズ白書（平野悠一郎監修・辰巳出版）、2-3、102-105
199. 平野悠一郎、野間大介（筑波大学）、武正憲（筑波大学）、マウンテンバイカーの野外フィールドへの価値認識と地域貢献活動への志向、ランドスケープ研究、85（5）:493-498
200. 平野悠一郎、林業遺産の分類と保存・活用に向けての価値、林業遺産：保全と活用にむけて（柴崎茂光・八巻一成編、東京大学出版会）、23-42
201. 平野悠一郎、日本における森林の多面的利用を促す制度的現状と課題、日本森林学会大会学術講演集、133:A20
202. 田中伸彦（東海大学）、木保知大（上田女子短期大学）、宮林茂幸（東京農業大学）、入江彰昭（東京農業大学）、平野悠一郎、下嶋聖（東京農業大学）、町田怜子（東京農業大学）、公民連携による新たな別荘地管理：長野県長和町のマスタープランを事例に、日本森林学会大会学術講演集、133:B8
203. 平野悠一郎、林業遺産選定事業のはじまりと歩み、森林科学、94:1-2



204. HIRANO Yuichiro (平野悠一郎). Human Value Studies in Forestry. (森林をめぐる人間の価値研究). Special Program for IUFRO World Day, Static Event:State-of-the-art Research Topics for the Future、No.8、<http://www.ffpri.affrc.go.jp/en/news/static-event/index.html>
205. 平野悠一郎. 文化財・遺産としての森林資源－林業遺産への注目に見る近年の動き－. 林経協季報柚径、64:39-44
206. 田中邦宏. 林分内の局所密度と単木の胸高直径成長について. 応用森林学会大会研究発表要旨集、72:15
207. 田中邦宏. 自然探訪 2021 年 10 月 森林資源の利率・残高・引き出し. 森林総合研究所ウェブページ 今月の自然探訪 2021 年 10 月
208. 田中邦宏、齋藤和彦、平野悠一郎、田中真哉. 白見白見スギ人工林収穫試験地（和歌山県新宮市）定期調査報告－比較的温暖多雨な地域における高齢級スギ人工林の成長量について－. 森林総合研究所関西支所年報（令和 3 年版）、62:45-47
209. 田中邦宏. 収穫試験地における森林成長の長期継続調査. 森林総合研究所関西支所研究情報、142:1
210. 田中邦宏、小谷英司. ボロノイ分割による局所密度と単木の直径成長について. 日本森林学会大会学術講演集、133:P-067
211. 田中真哉. 西日本における時系列 Landsat データに基づく反射率推定. 日本森林学会大会学術講演集、133:P-095
212. 齋藤英樹、西園朋広、高橋正義、志水克人、山田祐亮、鄭峻介、田中真哉. 地上レーザと UAV を用いたスギ林分の樹高推定. 日本森林学会大会学術講演集、133:P-085
213. 高橋正義、田中真哉. 「森林・林業・木材産業政策に関するオンラインでのフリートーク」開催報告. 森林計画学会誌、55 (1):43-45

